

---

# NEWSLETTER

## 比較経済体制学会

---

No.62 August 2019

### Contents

- ・ 新役員体制のご案内
  - ・ 新代表幹事からのご挨拶
  - ・ 比較経済体制学会 2019 年度第 59 回全国大会を終えて
  - ・ 比較経済体制学会 2020 年度比較経済体制学会第 60 回全国大会開催計画および自由論題報告募集のご案内
  - ・ 学会機関誌編集委員会からのお知らせ
  - ・ 第 10 回 ICCEES 世界大会のお知らせ
  - ・ 比較経済体制学会第 59 回会員総会議事録
  - ・ 比較経済体制学会若手会員旅費助成規程
  - ・ 2019-2010 年度役員選挙結果
  - ・ 幹事会だより
  - ・ 新入会員のご紹介
  - ・ 2018 年度決算について
  - ・ 2019 年度予算について
  - ・ 日本経済学会連合令和 2 年度補助申請に関するお知らせ
  - ・ 事務局だより
- 

### 新役員体制のご案内

今大会の総会では、新役員選挙が行われました。新しい幹事選出枠組みの下で次のような役員体制が決まりました。新しい幹事に選出されましたのは、[敬称略, 五十音順] 岩崎一郎(一橋大学)・上垣彰(西南学院大学)・大野成樹(旭川大学)・梶谷懐(神戸大学)・雲和広(一橋大学)・田畑伸一郎(北海道大学)・徳永昌弘(関西大学)・林裕明(立命館大学)・樋渡雅人(北海道大学)・堀江典生(富山大学)・丸川知雄(東京大学)・溝端佐登史(京都大学)・道上真有(新潟大学)・横川和穂(神奈川大学), 更に会計監査委員が(敬称略, 五十音順)加藤志津子(明治大学)・斎藤久美子(和歌山大学)の各会員です。

そして、第 1 回幹事会におきまして新しい代表幹事に溝端佐登史会員が選出され、事務局長・会計担当には徳永昌弘(関西大学)会員が、メンバーシップ・Web サイト担当には林裕明会員が選出されました。今期の幹事任期は 2019 年 6 月 23 日～2021 年大会までです。

このほか、2020 年大会(西南学院大学)では上垣彰大会組織委員長、田畑伸一郎プログラム委員長、といった布陣となっております。

新しい体制のもとで、なお一層会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

## 新代表幹事からのご挨拶

このたび、2019年6月全国大会(一橋大学)におきまして、伝統ある本学会の新しい代表幹事に就任させていただくことになりました。事務局長としてサポートした経験はありましても、代表幹事職は遠く離れた存在であり、重責に押しつぶされそうな思いを感じております。上垣彰前代表幹事が進められてきた課題を引き継ぎ、少しでも学会の発展に貢献できれば幸いです。

私にとりまして、本学会は、自らの研究の成長を映しだす鏡として大学院生の時代よりお世話になってきたところです。1984年大阪市立大学で行われました社会主義経済学会全国大会の共通論題報告「現代ソ連における中小企業の機能」が私自身初めての学会報告であり、以後も自分自身の研究成果を試す貴重な場をいただいたと思っています。文字通り、本学会には若手育成の場が内包されていました。

「若返り」は前執行部において至上命題と考えられてきました。もっとも、これは本学会に限らずすべての学会に共通する問題であり、その手立てが難しく成功したという話はずいぶん聞いたことがありません。しかも、若手はグローバルな環境のなかで育成することが求められます。育てることと評価することは表裏の関係にあります。制度化を強める経済学の研究評価は査読付き国際誌を自明の基準と見なしがちであり、方法論上多様性は必ずしも広く受容されておられません。ジャーナル引用の閉鎖性が閉鎖性の事例としてしばしば指摘されます。そのうえジョブマーケットが世界全体にオープン化している以上、国内の学会、学会和文誌が軽視される風潮はほぼ日本国内のすべての学会に共通している現象と言えます。しかも、若手であればあるほどこうした競争環境への適合力は強く、人生がかかる以上、評価に鋭敏になるのも無理のないことです。若返りという課題はまさに、日本における学会のあり方そのものを問うていると考えています。

今年は、体制転換30周年にあたります。世界的に国家の影響、ナショナリズム、ポピュリズムが強まるなかで、旧社会主義諸国の経済システムは多様な形で出現しており、まだまだ振り返る価値はあるのかもしれませんが、とはいえ、一世を風靡した移行経済学の存在感はすでに薄れ、新興市場経済、国家資本主義がそれに取って代わっているようにさえ見えます。ポスト移行経済の時代に、比較経済学、比較経済体制論は一体どこに向かっているのでしょうか。The Journal of Comparative Economicsは雑誌の方針において制度研究の重要性を指摘してはいますが、中国、新興市場経済といったエリアを研究の対象にあげることで済ませ、比較の意義を汲み取ることは必ずしも成功しているわけではありません。経路依存性というよりも惰性的なのかもしれませんが、比較経済学はとすれば地域研究に傾きやすく、欧州派、ロシア派、中国派などに分岐しかねないリスクを帯びています。この傾きが強くなりすぎると、方法論的な共有資産を十分に重ねていない比較経済学はその存在意義すら問われることになると考えています。

こうしたパラダイムを考える試みもまた経済学全般に当てはまることです。実際、人間の本性と社会経済システムをテーマとする骨太の接近、モラルサイエンスに回帰した経済学の再生の試みなどが主流派からも提起されています。その意味では、比較の視座から経済システムを洞察するという方法によって、本学会こそが経済学の最先端に位置しているという矜持を保つことは大事なことに思えます。その際、多様なシステム像をめぐる、異なる方法、異なる意見に対する寛容さもまた求められます。

比較経済学に関して、2021年夏には韓国で第3回世界大会が開催されます。アジアで初めて開催される大会という意味ではひとつの画期になるものであり、本学会もこれまでと同様に大会開催に協力する立場にあります。そして、若返りも比較経済学の方法追求も、研究の国際的なネットワークのなかでこそ再考される必要があると思っています。

若手研究者はまさに「国際公共財」というべき存在です。少しでも若手が研究のモチベーションを高める場になることこそが学会の最大のミッションであり、そのためにも会員の皆さまが若手の知的な目標になるほどに研究を活性化させることが学会発展の王道だと考えます。私自身終活の年頃となりましたが、幹事の皆さまの足手まといにならないようにと言いつつ聞かせて、この王道を突き進めればと思っています。不慣れなためにご不便をおかけすることもあろうかと存じますが、皆さまの暖かいサポートを、心からお願い申し上げます。

2019年8月  
代表幹事 溝端 佐登史

## 2019 年度比較経済体制学会第 59 回全国大会を終えて

元号が令和に改められて初めての開催となった第 59 回比較経済体制学会全国大会は、6 月 22～23 日に、一橋大学一橋講堂で行われ、会員 95 名に参加いただきました。今回の全国大会は、その第一日目に、開催校である一橋大学との共催公開シンポジウムとして、政策フォーラム「新興市場経済を考える」を実施しました。同シンポジウムでは、午前の部として、新興市場学会会長であるジョセフ C. ブラダ・アリゾナ州立大学名誉教授による基調講演「BRICs 経済の過去と現在」及び上垣彰代表幹事（西南学院大学）と溝端佐登史会員（京都大学）との討論会が、午後の部では、田畑伸一郎会員（北海道大学）や丸川知雄会員（東京大学）に、非会員の濱口伸明教授（神戸大学）及び黒崎卓教授（一橋大学）を加えたパネル討論会「新興市場経済システムの光と影」が、それぞれ企画され、BRICs 諸国の経済情勢と問題点及び将来見通しについて、非常に活発かつ示唆的な議論が行われました。本シンポジウムには、45 名に及ぶ一般市民も参加した上、7 月 25 日付日本経済新聞夕刊にシンポジウム紹介記事が、1 面全面掲載され、比較経済体制学会の存在と意義を、広く知らしめる機会となりました。

\*\*\*\*\*

著作権の関係上、紙面の画像を貼り付けることが出来ません。下記リンクをご参照下さい：

[http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/file/2019forum1/2019forum1\\_newspaper.pdf](http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/file/2019forum1/2019forum1_newspaper.pdf)

\*\*\*\*\*

大会第二日目は、午前に、4 つの自由論題セッションが並行開催され、アフリカ、東南アジア、中国、北朝鮮、東欧、ロシア、地理情報システムの比較経済研究への応用に関する合計 12 の研究報告が行われました。これら自由論題セッションに引き続き、特別企画として、Palgrave Macmillan 社による出版応募説明会も開かれ、多くの会員の関心を集めました。午後に開催された共通論題セッション「ポピュリズム政治とヨーロッパ経済」では、松澤祐介会員（西武文理大学）と共に、非会員の田中素香名誉教授（中央大学）と仙石学教授（北海道大学）から、ポピュリズム指向の政治潮流が欧州経済に及ぼす影響に関する最新の研究成果が報告され、その後は、池本修一会員（日本大学）と田中宏会員（立命館大学）をも交えた討論会も行われました。この共通論題セッションも、大会第一日目の公開シンポジウムに負けず劣らず、大変聴きごたえのある研究集会となりました。

例年にも増して、数多くの研究報告と参加者を得た第 59 回全国大会は、非常に大きな成功を収めました。この場をお借りして、学会執行部、大会プログラム委員、大会組織委員をはじめとする関係者の皆様に厚くお礼申し上げる次第です。

（岩崎一郎・大会組織委員長）

# 2020 年度比較経済体制学会第 61 回全国大会開催計画および

## 自由論題報告募集のご案内

比較経済体制学会 2020 年度全国大会は、2020 年 6 月 20 日（土曜）、21 日（日曜）の二日間にわたって、西南学院大学（福岡市）で開催されることになりました。共通論題については、検討を進めているところです。

\*\*\*\*\*

大会組織委員長：上垣彰（西南学院大学）

大会組織委員：小出秀雄（西南学院大学）、志田仁完（環日本海経済研究所）、武田友加（九州大学）、柳学洙（北九州市立大学）

大会プログラム委員長：田畑伸一郎（北海道大学）

大会プログラム委員：安達祐子（上智大学）、上垣彰（西南学院大学）、梶谷懐（神戸大学）、樋渡雅人（北海道大学）

\*\*\*\*\*

自由論題の報告者の募集を開始します。自由論題での発表を希望する会員は、以下の事項を、下記連絡先にお知らせください。応募締め切りは、2020 年 3 月 31 日（火）午後 5 時です。

- (1) 氏名・所属・連絡先
- (2) 報告論題
- (3) 報告内容の骨子（400～600 字程度）

報告希望は、最大限尊重するつもりですが、会場等の都合により、ご希望に添えない場合もあります。あらかじめご了解ください。なお、パネルセッションをご希望の際は、大会プログラム委員会へお早めにご相談ください。

自由論題応募先：

樋渡雅人

〒060-0809 札幌市北区北 9 条西 7 丁目 北海道大学大学院経済学研究院

E-mail: mhiwatari[at]econ.hokudai.ac.jp ※[at]を@に変更ください。

## 学会機関誌編集委員会からのお知らせ

学会機関誌『比較経済研究』（英語名称：Japanese Journal of Comparative Economics）は、レフェリー制投稿誌として、年 2 回発行しています。

学会幹事会の委嘱により、第 56 巻及び第 57 巻は、白石麻保編集委員長（北九州市立大学）、安達祐子副編集委員長（上智大学）、岩崎一郎副編集委員長（一橋大学）、三嶋恒平編集委員（慶應義塾大学・56 巻 1 号担当）、志田仁完編集委員（環日本海経済研究所・56 巻 2 号担当）、柳原剛司編集委員（松山大学・57 巻 1 号担当）、樋渡雅人編集委員（北海道大学・57 巻 2 号担当）の 7 名が、その編集を担当しております。どうぞよろしく願いいたします。

学会機関誌『比較経済研究』第 56 巻 2 号が先日刊行され、既に会員の皆様のお手元に届いているかと思えます。その内容は、次の通りです。

### 特別寄稿論文

ジェラルド・ロラン「比較経済学が開く歴史的地平」（志田編集担当はじめ編集委員会訳）

### 論文

金野雄五「ユーラシア経済連合：統合の現段階と一帯一路との関係」

柳学洙「朝鮮民主主義人民共和国の工業配置と企業—地域間ネットワーク」

岩崎一郎・馬欣欣・溝端佐登史「移行経済の企業所有構造と経営者交代：中国と東欧のメタ比較分析」  
書評

加藤弘之・梶谷懐編著『二重の罟を超えて進む中国型資本主義：「曖昧な制度」の実証分析』  
(伊藤正一)

宇山智彦・樋渡雅人編著『現代中央アジア：政治・経済・社会』  
(堀江典生)

Peter Havlik and Ichiro Iwasaki, eds., *Economics of European Crises and Emerging Markets*  
(吉井昌彦)

三村光弘著『現代朝鮮経済：挫折と再生への歩み』  
(柳学洙)

Sarah Wilson Sokhey, *The Political Economy of Pension Policy Reversal in Post-Communist Countries*  
(佐藤 嘉寿子)

## Abstracts

ご寄稿いただいた先生方には、ご尽力賜りましたことに心より御礼申し上げます。

尚、『比較経済体制研究』56巻2号は後述の科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)にもアップロードされておりますのでそちらもご活用ください。

投稿原稿(論文(400字×55枚以内)、研究ノート(400字×45枚以内)、書評(400字×17枚以内))を募集中です。原稿は随時受け付けていますが、次号57巻1号(2020年1月刊行予定)への投稿は、2019年8月末に締め切ります。続く57巻2号(2020年6月刊行予定)の投稿×切は、2019年12月末です。同号に掲載ご希望の会員は、樋渡雅人編集委員(mhiwatari[at mark]econ.hokudai.ac.jp)に原稿をご提出下さい。但し機関誌の企画及び査読の都合上、上記締め切り直近の掲載号に掲載されない場合がございます。ご了承ください。

当学会に連続2年度以上在籍している若手研究者(院生会員及び年齢40歳以下の正会員)が単独執筆した機関紙掲載論文は、原則として、その全てが自動的に「研究奨励賞」の候補対象となります。応募資格を持つ会員の皆様は、特に奮ってご投稿ください。

『比較経済研究』は、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)の登録雑誌です。最新号を含む全てのバックナンバーが閲覧可能です。どうぞ御活用ください。電子版トップページのアドレスは、  
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjce/-char/ja/>  
です。

ここであらためてお知らせいたします。先日会員メーリングリストでもお伝えいたしましたように、先日刊行されました『比較経済研究』56巻2号の掲載内容に誤りがありました。訂正箇所は以下です。

書評 加藤弘之・梶谷 懐編著『二重の罟を超えて進む中国型資本主義：曖昧な制度の実証分析』  
の書誌情報

誤 文真堂, 2017年, xvii+205 pp.      正 ミネルヴァ書房, 2016年, vii+316 pp.

尚、JSTAGE(電子版)バージョンでは既に修正済みです。

(学会機関誌編集委員会)

## 第 10 回 ICCEES 世界大会がカナダ・モントリオールで開催予定,

2020 年 8 月 4-9 日

第 10 回 ICCEES 世界大会がカナダのモントリオールで 2020 年 8 月 4-9 日に開催されます。開催機関より大会と call for paper のご案内が着ておりますのでご案内します。また重ねて、ICCEES より、国際協力への貢献と若手研究者の報告に対する賞の公募も着ております。ご関心をお持ちの会員には、どうぞ積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

The Canadian Association of Slavists (CAS) has launched the call for proposals for the 10th World Congress of the International Council for Central and East European Studies (ICCEES) that will take place at Concordia University in Montréal, Canada from 4-9 August, 2020. The theme of the conference is " Bridging National and Global Perspectives ". The deadline for application is 15 September 2019.

Please find further information below.

The call has been published on the congress website:

[https://sites.events.concordia.ca/sites/iccees/en/iccees2020/call\\_for\\_submissions](https://sites.events.concordia.ca/sites/iccees/en/iccees2020/call_for_submissions)

Please also note that at its May 23, 2019 meeting in Montreal, the Executive Committee of ICCEES allocated \$45,000 (CAD) to cut registration fees by \$250 (CAD) for students completing their Ph.D. or within two years after completion, and who are based outside of North America:

<https://sites.events.concordia.ca/sites/iccees/en/iccees2020/about/pages/51/Announcements>

Furthermore, ICCEES has launched an award for the Promotion of International Cooperation in Central and East European and Eurasian Studies. The deadline for application is January 31, 2020. Please find further information below.

The call has been published on the ICCEES website:

[http://iccees.org/latest\\_information/call-for-nominations-for-an-award-for-the-promotion-of-international-cooperation-in-central-and-east-european-and-urasian-studies/](http://iccees.org/latest_information/call-for-nominations-for-an-award-for-the-promotion-of-international-cooperation-in-central-and-east-european-and-urasian-studies/)

(事務局)

## 比較経済体制学会第 59 回全国大会会員総会議事録

会員総会議長に栖原学会員が選出され、総会が開催されました。総会は、配布資料とプロジェクター資料にもとづいて進められました。以下、報告事項と審議事項に分けて記載します。

### 報告事項

1. 入・退会者について、鈴木拓メンバーシップ担当幹事より以下の内容で報告されました。
  - \* 入会者(5名).
  - \* 退会者(9名) 年度末退会希望者7名とご逝去による退会2名。ご逝去により退会された秋津那美子会員・鎌田隆会員に対して、上垣代表幹事の号令で臨時総会で黙祷を捧げました。
2. 日本経済学会連合について、日本学術会議関連の助成告知と報告を事務局より行いました。
3. 機関誌編集状況について、白石麻保編集委員長より報告がありました。

4. 2020年度全国大会について、大会組織委員長が上垣彰会員、プログラム委員長が田畑伸一郎会員となることが報告されました。
5. 研究奨励賞審査員の選出を行うと共に審査を開始したことが事務局より報告されました。
6. 事務委託先を変更し「学会支援機構」とすることが事務局より報告されました。

#### **審議事項**

1. 2017年度決算について事務局より発議があり、会計監査に問題のなかったことが報告され、承認されました。
2. 2018年度予算について事務局より発議があり、承認されました。
3. 若手研究者支援策について提案がなされ、文言等の修正の上で承認されました。次項をご覧ください。
4. 役員選挙が行われました。結果は次々項をご参照ください。

(事務局)

## 比較経済体制学会若手会員旅費助成規程

(名称)

第1条： 比較経済体制研究に関する学術の発展を目的として、若手会員に対して全国大会に参加するにあたっての旅費助成（以下「旅費助成」と呼ぶ）を行う。

(旅費助成の対象となる会員)

第2条： 旅費助成の対象となる会員は、助成年度において本学会に在籍する、院生会員または助成年度の最終日において40歳未満の常勤職にない正会員とする。

(旅費助成の回数)

第3条： 原則として連続する年次に亘り助成を受けることは出来ない。但し申請が予定助成総額を下回る場合はこの限りではない。

(助成額並びに助成の内容)

第4条： 旅費助成は毎年度行う。また助成額は、原則として年度あたり総額10万円以内とする。申請者の要する交通費（新幹線指定席特急券・運賃、事前購入割引航空運賃）に対して、領収書に基づき、幹事会の認めた金額を助成する。

(申請方法)

第5条： 第2条による申請は本人が行い、他の会員1名による推薦を必要とする。申請は、事務局による所定書類に基づく。また申請は助成対象となる大会が開催される3ヶ月前までに行うこととする。事前購入割引運賃のものが購入出来ず領収書の提出が見込めない場合、見積書による申請とする。

(選考)

第6条： 申請に基づき、第4条に定める金額を下回る限りの申請に対して、全て助成を行うものとする。申請総額が助成予定総額を上回った場合、大会において研究報告を行う者を優先する。その上で申請総額が予定助成残額を上回る場合、代表幹事および事務局により抽選を行い助成対象者を決定する。

(採択結果の発表)

第7条： 事務局は、助成対象となる大会が開催される2ヶ月前までに採択結果を申請者に通知すると共に、大会時の幹事会において報告しなければならない。

(規程の改正)

第8条： 本規程の改正および廃止には、幹事会の発議に基づき会員総会での出席会員の過半数の賛成を必要とする。

附則 1. 本規程は2019年6月22日から施行する。



## 2019-2020 年度役員選挙結果

林裕明会員・小林琢磨会員を選挙管理委員として、事務局作成の幹事被選挙人名簿・会計監査委員被選挙人名簿に基づいて投票が行われました。結果は以下の通りです。投票総数は47票でした。

幹事選挙		会計監査委員選挙	
雲和広	30	加藤志津子	11
岩崎一郎	29	斎藤久美子	9
徳永昌弘	25		
田畑伸一郎	23		
溝端佐登史	23		
上垣彰	22		
梶谷懐	19		
堀江典生	17		
丸川知雄	17		
樋渡雅人	14		
横川和穂	14		
道上真有	13		
林裕明	12		
大野成樹	11		

(次点多数のため省略)

選任された新役員は以下の通りです(任期:2019年6月23日~2021年全国大会終了迄):

代表幹事: 溝端佐登史(京都大学)

事務局幹事: 徳永昌弘(関西大学, 事務統括・会計)・林裕明(立命館大学, メンバーシップ・Web サイト)

幹事(敬称略, 五十音順):

岩崎一郎(一橋大学)・上垣彰(西南学院大学)・大野成樹(旭川大学)・梶谷懐(神戸大学)・雲和広(一橋大学)・田畑伸一郎(北海道大学)・徳永昌弘(関西大学)・林裕明(立命館大学)・樋渡雅人(北海道大学)・堀江典生(富山大学)・丸川知雄(東京大学)・溝端佐登史(京都大学)・道上真有(新潟大学)・横川和穂(神奈川大学)

会計監査(敬称略, 五十音順):

加藤志津子(明治大学)・斎藤久美子(和歌山大学)

日本経済学会連合評議員(敬称略, 五十音順):

雲和広(一橋大学)・横川和穂(神奈川大学)

### 幹事会だより

1) 大会前日、総会に先立ち、幹事会が行われました。出席3分の2以上で幹事会は成立しました。総会議事と重複する部分もありますが、以下議事録をご紹介します。

#### 報告事項

冒頭に、前回幹事会議事録および持ち回り議事録並びに会務報告が行われました。次に入会者・退会者情報が事務局より示されました。

日本学術会議・日本経済学会連合関連の報告が事務局より行われました。学会誌発行・編集状況について、第2号が順調に編集されていることが報告されました。

事務委託先の変更について、経緯及び現状に関して事務局より説明がありました。

#### 審議事項

2020年度全国大会につき、上垣彰会員を組織委員長・田畑伸一郎会員をプログラム委員長とし西南学院大学で開催することが了承されました。2018年度決算・2019年度予算につき承認されました。学会奨励賞審査委員の選出が行われました。若手奨励策について、文言の修正等を行った上で承認されまし

た。

以上を踏まえ、総会議題および議長候補について審議され、承認されました。また Web サイトの英語化についての議論を行い、次期幹事会への申し送り事項とすることになりました。

2) 大会2日目、前日に選出された新幹事および当日において任を解かれることとなる旧幹事による、新旧合同幹事会が開催されました。

最初に、新幹事会における代表幹事の他薦が行われ、溝端佐登史会員が選出されました。また、事務局担当幹事として、徳永昌弘会員(事務統括・会計担当)・林裕明会員(メンバーシップ・Web・ML 担当)が選出されました。

旧幹事会からの申し送り事項として、

- (1) 若手研究者補助の始動を行うこと;
- (2) Web の英語化に関する議論を進めること;
- (3) 機関誌費用の拡大・招聘者の多さによる旅費支出の拡大に留意すべきこと;

が示されました。

また日本経済学会連合評議員として雲和広会員・横側和穂会員が、JCREES 代表として溝端佐登史会員が選出されました。

## 新入会員のご紹介

小林拓磨 松山大学経済学部 (推薦者: 岩崎一郎会員・杉浦史和会員)

Yigitali Zokirov 北海道大学大学院経済学院 (院生) (推薦者: 樋渡雅人会員・山田大地会員)

Oluwanishola Okogun 北海道大学大学院経済学院 (院生) (推薦者: 樋渡雅人会員・山田大地会員)

王 薈琳 一橋大学大学院経済学研究科 (院生) (推薦者: 馬欣欣会員・岩崎一郎会員)

西口竜太 名古屋大学大学院経済学研究科 (院生) (推薦者: 由川稔会員・栗林純男会員)

(事務局)

# 2018年度決算について

以下のとおり総会にて承認されました。

2018年度比較経済体制学会決算書(2018年4月1日-2019年3月31日)

	2018年度予算(a)	(内訳)	2018年度決算(b)	(内訳)	差額(b-a)
<b>収入の部</b>					
前年度繰越金	2,277,549		2,277,549		0
会費 <sup>(1)</sup>	1,773,000		1,771,600		▲ 1,400
雑収入	0		23		23
合計	4,050,543		4,049,172		▲ 1,371
<b>支出の部</b>					
次年度全国大会開催費補助 <sup>(2)</sup>	300,000		-108,856		▲ 408,856
大会組織委員会・プログラム委員会経費	0		89,830		89,830
委員旅費		0	0		
大会招待講演者旅費		0	89,830		
その他		0	0		
機関誌印刷費	600,000		797,600		197,600
機関誌編集委員会経費	155,000		166,886		11,886
査読謝礼		0	0		
英文校閲料		5,000	7,560		
人件費 <sup>(3)</sup>		80,000	80,000		
電子版アップロード作業委託料		70,000	79,326		
その他		0	0		
奨励賞 <sup>(4)</sup>	50,000		50,000		0
会員名簿印刷費 <sup>(5)</sup>	100,000		100,000		0
幹事会経費	20,000		12,000		▲ 8,000
事務局経費	145,000		146,990		1,990
印刷費		10,000	17,000		
機関誌発送費		100,000	111,265		
その他送料		20,000	0		
文房具		0	0		
送金手数料		5,000	7,776		
人件費		0	0		
Webサイト維持費		10,000	8,032		
その他		0	2,917		
事務委託費(学協会サポートセンター)	250,000		334,784		84,784
年度事務委託料		200,000	201,204		
年度事務委託料に含まれない料金・手数料		50,000	133,580		
経済学会連合分担金	30,000		30,000		0
JCREES分担金	30,000		30,000		0
予備費	50,000		0		▲ 50,000
小計	1,730,000		1,649,234		▲ 80,766
次年度繰越金	2,320,543		2,399,938		79,395
合計	4,050,543		4,049,172		▲ 1,371

(1) 入金額は2018年3月31日までの実績値。

(2) 2018年度北海道大学大会補助余剰返金分。2019年度一橋大学大会分は次年度に入ってから支出。

(3) 4万円×2号×1名。

(4) 次回の賞与は2018年度を予定。

(5) 次回の発行は2020年度。

作成日  
作成者

2019年4月5日  
雲 和広



上記の決算書に相違ないことを認めます。

2019年4月19日

会計監査 氏名 加藤志津子



2019年5月10日

会計監査 氏名 道上真有



# 2019年度予算について

以下のとおり総会にて承認されました。

## 2019年度比較経済体制学会予算書(2019年4月1日-2020年3月31日)

	2018年度予算	(内訳)	2018年度決算	(内訳)	2019年度予算	(内訳)
<b>収入の部</b>						
前年度繰越金	2,277,549		2,277,549		2,399,938	
会費 <sup>(1)</sup>	1,773,000		1,771,600		1,735,200	
雑収入	0		23		0	
合計	4,050,543		4,049,172		4,135,138	
<b>支出の部</b>						
次年度全国大会開催費補助 <sup>(2)</sup>	300,000		-108,856		600,000	
大会組織委員会・プログラム委員会経費	0		89,830		70,000	
委員旅費		0		0		0
大会招待講演者旅費		0		89,830		70,000
その他		0		0		0
機関誌印刷費	600,000		797,600		600,000	
機関誌編集委員会経費	155,000		166,886		155,000	
査読謝礼		0		0		0
英文校閲料		5,000		7,560		5,000
人件費 <sup>(3)</sup>		80,000		80,000		80,000
電子版アップロード作業委託料		70,000		79,326		70,000
その他		0		0		0
奨励賞 <sup>(4)</sup>	50,000		50,000		0	
会員名簿印刷費 <sup>(5)</sup>	100,000		100,000		0	
幹事会経費	20,000		12,000		20,000	
事務局経費	145,000		146,990		145,000	
印刷費		10,000		17,000		10,000
機関誌発送費		100,000		111,265		100,000
その他送料		20,000		0		20,000
文房具		0		0		0
送金手数料		5,000		7,776		5,000
人件費		0		0		0
Webサイト維持費		10,000		8,032		10,000
その他		0		2,917		0
事務委託費 <sup>(-19.3.:学協会サポートセンター、19.4.-.:学会支援機構)</sup>	250,000		334,784		418,480	
業務委託業者移行初期費用 <sup>(6)</sup>						168,480
年度事務委託料		200,000		201,204		200,000
年度事務委託料に含まれない料金・手数料		50,000		133,580		50,000
経済学会連合分担金	30,000		30,000		30,000	
JCREES分担金	30,000		30,000		30,000	
予備費 <sup>(7)</sup>	50,000		0		50,000	
小計	1,730,000		1,649,234		2,118,480	
次年度繰越金	2,320,543		2,399,938		2,016,658	
合計	4,050,543		3,619,799		4,135,138	

(1) (10,000円×166人+4,000円×67人)×0.9 (2019年3月22日現在の会員数)

(2) 2019年度は一橋大学大会補助分30万円プラス2020年度大会補助分30万円。

(3) 4万円×2号×1名。

(4) 次回の賞与は2018年度を予定。

(5) 2018年度は発行予定。

(6) 2019年度のみ、学会支援機構による見積額。

(7) 緊急対応用。

予算は全て2015~2017年度実績の平均値を参考に編成した。2018年度・2019年度は事務委託の変更等イレギュラーな要因がある。

作成日 2018年4月5日  
作成者 雲 和広

## 日本経済学会連合令和2年度補助申請に関するお知らせ

日本経済学会連合より、加盟学会事務局に日本経済学会連合令和2年度事業の一環としての外国人学者招聘滞日補助、国際会議派遣補助、および学会会合費補助の要項が近く提示されます。本ニューズレター発行時にはまだ募集されておりましたが、次のニューズレター刊行時ではご準備に間に合わない可能性もありますので、事前に告知致します。

- (1)外国人学者招聘滞日補助;
- (2)国際会議派遣補助;
- (3)学会会合費補助.

補助内容については、下記の WEB サイトでご確認ください。

<http://www.gakkairengo.jp/>

日本経済学会連合の補助は、加盟学会単位での申請です。特に、国際会議派遣補助については 1 学会 1 件の申請となっており、加盟学会代表者の推薦を受けることが条件となっております。また、第一次募集においていずれかの補助を受けた場合、第二次募集には学会として応募することが出来ません。更に、2 年連続して同一学会が同じ項目に関する補助を受けることも出来ません(項目が異なる申請は認められます。つまり、上記の(1)が n 年に採択された上で、n+1 年に(2)が採択されることはあり得ます)。

なお令和元年度は、国際学会派遣補助の第二次募集に本学会より雲和広会員(一橋大学)の派遣助成が採択されました。派遣会議は、ロシア連邦・ハバロフスク市ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所にて開催の日ロ極東学術シンポジウムでした。尚、従って令和2年度においては、(2)国際会議派遣補助の申請は本学会として出来ませんことご留意下さい。

比較経済体制学会事務局では、上記補助をご希望の方々からの申請を受け付けています。応募ご希望の会員のみなさまは、上記日本経済学会連合 WEB サイトにて申請書をダウンロードし、必要事項と各申請に必要な書類を同封のうえ、事務局までお送りください。事務局受付締切日は、事務処理に要する時間制約を鑑みまして、各募集締切日一ヶ月前とします。詳しくは日本経済学会連合 WEB サイトをご覧ください。

応募者多数の場合は、幹事会において選考のうえ、本学会として推薦する応募を選定します。ただし本学会の推薦が補助決定を約束するものではありません(沢山の申請があつた際には半分以上が不採択となっている事を確認しています)。また申請金額の満額が助成されるとは限らず、助成金額については日本経済学会連合の審査によって決定されますことにもご留意ください。

---

### 事務局だより

2019年度全国大会のご報告、そして2020年度全国大会のご案内を戴きました。会員の皆様におかれましては奮って自由論題へのご応募をお願い致しますと共に、大会へのご参加を宜しくお願い申し上げます。

2019年6月より、役員・執行部が一新されました。会員の皆様には新執行部の方々へのご支援ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

直近の56巻第2号は、論文の数・質ともに大変充実したものであります。編集委員会へのご協力もまた宜しくお願い致します。

旧事務局体制の作業は本ニューズレターの作成をもって終了し、新事務局へと引き継ぎます。皆様方のご協力の御陰で旧事務局は大過なく作業を行うことが出来ました。新事務局への一層のご支援を宜しくお願い申し上げます。

(旧事務局 雲和広・鈴木拓)

---

### ニューズレターNO.62 発行

2019年8月24日

比較経済体制学会事務局

事務局長・会計担当：

564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学商学部 徳永昌弘

メンバーシップ・Webサイト担当：

525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

立命館大学経済学部 林裕明

事務局メールアドレス：

adm@jacesecon.sakura.ne.jp